

あかるさかおるの スケッチブック

No. 13

バックナンバーは、町ホームページで
まとめて読むことができます▶



“夢の翼”

先日あるイベントで、親子で講演を聴きました。夢と努力の大切さを、夢を叶えた有名人の名言をいくつも交えながら、子どもにもわかりやすく楽しくお話しされていて、感動しました。親として一つ気に掛かったことは、お話に出てきた人物が全員男性だったことです。もし一人でも女性が含まれていたなら、女の子もそこにいた男の子と同じくらい、自分事として夢の実現を思い描けるような気がしたのです。

思い返せば、私もさまざまな学びの場で、同じような経験をしてきました。例えば、小学生の頃に読んだ「世界の偉人伝」シリーズの中に、女性は数えるほどしか出てきませんでした(その一人がキュリー夫人です。今思えば「キュリーさんの妻」という肩書き表記なのですね。マリー・キュリーとしてほしかったな)。

映画の世界でも主人公は男性の割合が高いことが知られていますが、実は絵本の主人公も圧倒的に男の子が多いこと(男4:女1)が分かっています。さらに、主人公が男の子の場合は冒険心をくすぐるものが多いのですが、女の子が主体的に行動するお話となると、グッと少なくなります。(2021年に調査報告あり)

物語の主人公は男の子である。その隠れたメッセージは、子どもたちの成長にどんな影響を与えるのでしょうか。女の子も男の子と同じくらい、のびのびと翼を広げ、冒険の世界に飛び立ってほしい。私たち大人が、意識的にアシストする必要を感じています。

【このコラムを書いている人 

すがわら さやか
菅原 明香 (あかるさかおる)

アライアンス

ナリワイ ALLIANCE 代表

通訳ガイドやアート活動、コミュニティづくりなどを行う複業アーティスト。三川町在住、2児の母。

